

佐々木蘭貞 (Randall, Randy J. Sasaki) Ph.D.

一般社団法人「海と人の文化研究(仮名)」理事 (設立準備中)
九州国立博物館 客員研究員
九州大学浅海底フロンティア研究センター 共同研究員
福岡市埋蔵文化財センター 文化財教育普及専門職員

著書

単著 『職人：水中考古学者 (仮タイトル)』【現在執筆中】 2021年 秋 予定

チャプター (単著) 「諸外国における水中考古学教育とトレーニング」『水中遺跡の歴史学』 佐藤信 (編) 山川出版 pp.147-166, 2018年

チャプター (単著) 「元寇沈没船を探るー日本・ベトナムにおける調査」『水中文化遺産』 林田憲三 (編) 勉誠出版 pp. 37-58, 2017年

単著 『文化交流展特別展示図録：水の中からよみがえる歴史ー水中考古学最前線』九州国立博物館 40頁 2017年

単著 *The Origins of the Lost Fleet of the Mongol Empire*. Texas A&M University Press . 216頁 2015年

チャプター(共著) Sasaki Randall, and Jun Kimura “Basic Thoughts on Anchors from East and Southeast Asia” *Maritime Contacts of The Past: Deciphering Connections amongst Communities*. Sila Tripati (編) Kaveri Books. pp.605-628, 2014年

チャプター(共著) Kenzo Hayashida, Randall Sasaki, and Jun Kimura “The Submerged Archaeological Sites of Japan” *Prehistoric Archaeology on the Continental Shelf*. Amanda Evans, Nick Flemming, and Joe Flatman (編) Springer. pp.275-290, 2014年

チャプター (単著) “A Survey of East Asian Shipbuilding Traditions during the Era of Chinese Maritime Expansion” *The Oxford Handbook of Maritime Archaeology*. Alexis Catsambis, Benjamin Ford, and Donny Hamilton (編) Oxford University Press. pp.535-560, 2011年

単著『沈没船が教える世界史』 メディアファクトリー新書 222頁 2010年 (韓国語版も出版)

修士論文・博士論文

【修士論文】

“The Origin of the Lost Fleet of the Mongol Empire” Texas A&M University (TAMU) Department of Anthropology, Nautical Archaeology Program 2009年

【博士論文】

“The History, Present, and Future of Underwater Cultural Heritage Management of Japan” Department of Anthropology, Nautical Archaeology Program 2019年

論文

査読付・主要論文

(単著) 「水中文化遺産研究の可能性」 歴博研究報告特集号:「共同研究」中世日本の国際交流における海上交通に関する研究 国立歴史民俗博物館研究報告 第223集 pp. 179-204, 2021年

(共著) 清野孝之、佐々木蘭貞、藤井幸司「展望：日本と海外における水中遺跡保護の取組の現状」『考古学研究』66(3) pp. 5-9, 2020年

(共著) Yoshifumi Ikeda, Randy Sasaki, and Jun Kimura. “Recent Investigations at Takashima Underwater Site: Searching

for the Lost Fleet of the Mongol Empire.” *Current Science (Indian Academy of Sciences)* 117 (10) pp.1635-1639, 2019
(共著) 赤司善彦, 佐々木蘭貞 「海外における水中遺跡保護の現状と取り組み」 月刊文化財 No.634, 2016 年
(単著) 「水中考古学のいま—発見と保護と研究」 西日本文化 No.479, 2016 年
(共著) Sasaki, Randall 他 “Naval Battlefiled Archaeology of the Lost Kublai Khan Fleets” *The International Journal of Nautical Archaeology* 43, 2013 年

(共著) Jun Kimura, Randall Sasaki, and Vu The Long “Historical development of Asian anchors, evidenced by two wooden anchors found in northern Vietnam.” *The International Journal of Nautical Archaeology* 40, 2010 年

コラムなど

(共著) 安倍雅史、上杉彰紀、岡崎健治、佐々木蘭貞、間舎裕生 「ディルムンを掘る：バハレーン、ワーデュー・アッ=サイル考古学プロジェクト 2020」 第 28 回西アジア発掘調査報告会報告集 日本西アジア考古学会、2021 年

(単著) “My Most Important Contribution to Maritime and Underwater Archaeology.” *Our Blue Planet: An Introduction to Maritime and Underwater Archaeology*. Alexis Catsambis 他 (編) Oxford University Press. 2020 年

(単著) 「水中考古学とデジタル技術の利用」 『文化情報学事典』 勉誠出版, 2019 年

(単著) 「水中考古学の過去・現在・未来」 比較文明学会 11, 2018 年

(単著) 「鷹島海底遺跡の調査とその後—これからの水中考古学研究」 『唐物 KARA-MONO 展』 神奈川県立金沢文庫連続講座, 2017 年

(単著) 「九州国立博物館における水中考古学の取り組み」 東風西声 (九州国立博物館紀要), 2017 年

(共著) 矢野健一, 近藤芽衣, 川村貞夫, 島田伸敬, 佐々木蘭貞 「葛籠尾崎湖底遺跡の地形測量」 日本文化財科学大会大会研究発表要旨集, 2017 年

(単著) “The Lost Mongol Fleet” *The Sea in World History Exploration, Travel, and Trade*. ABC-Clio. 編) S. Stein. 2016 年

(単著) 「白藤江の調査から：コラム」 『九州国立博物館特別展：大ベトナム展図録』, 2013 年

(単著) 「新安船と莞島船の船体構造：コラム」 季刊考古学 No.123, 2013 年

(単著) 「元寇の船（鷹島海底遺跡）：コラム」 季刊考古学 No.123, 2013 年

(共著) Randall Sasaki, Jun Kimura. Archaeological Survey of the Bach Dang Historical Battle-Field. INA Annual 2011, 2012 年

(共著) Randall Sasaki, Chul-Han Lee. “Goryeo Dynasty Shipwrecks in Korea” *Shipwreck ASIA: Thematic Studies in East Asian Maritime Archaeology (Toyota Foundation Project Report)*. Jun Kimura (編), 2010 年

報告書

文化庁水中遺跡調査検討委員会 『日本における水中遺跡保護の在り方について 報告：資料編 2』 2018 年 (データ編集・執筆など調査主担当)

九州国立博物館 『水中遺跡の保存活用に関する調査研究』 文化庁委託事業成果報告書 1~5 2013~2017 年 (委託事業主担当として主に執筆・編集、調査を実施)

文化庁水中遺跡調査検討委員会 『日本における水中遺跡保護の在り方について』 文化庁水中遺跡調査検討委員会 2017 年 (オブザーバーとして助言、一部執筆、資料調査の主担当)

多良間村教育委員会 『高田海岸遺跡：沖縄県宮古郡多良間村所在水中遺跡の調査』2017年（調査主担当）
九州国立博物館 『日中韓文化遺産フォーラム：水中文化遺産の保護と活用』2017年（事業企画・運営主担当）

Randall Sasaki *Bach Dang River Archaeological Survey Project. Internal Report* National Geographic (Waitt Foundation) (非公開) 2010年（調査主担当・執筆）

講演・学会発表

（招待講演）「沈没船から読み解く造船技術と航海」令和二年度 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群オンライン公開講座（動画作成），2020年 9月

（国際学会）研究発表「災害考古学と水中考古学：日本の発展のために」セッション：水中遺構に記録される災害と人の営み 日本地球惑星科学連合国際大会（JpGU-AGU2020）オンライン開催，2020年 7月

（招待講演）「昇平丸の調査：水中考古学の可能性」 照国神社・照国講演会，鹿児島市，2019年 8月

（講演・企画）「令和元年度北海道上ノ国町水中文化遺産調査報告」，北海道上ノ国町，2019年7月

（招待講演）「近年の水中文化遺産保護に対する取り組みの動向」 文化遺産国際協力コンソーシアム・西アジア分科会，東京，2019年7月

（招待講演）「沈没船から読み解く造船技術と航海」第1回国際検討会「古代東アジアの航海と宗像・沖ノ島」「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業，福岡市，2019年 3月

（講演・企画）「東洋の船：海底からよみがえる真実」九州大学浅海底フロンティア研究センター公開講演会沈没船の物語：水中考古学の世界，福岡市，2019年，2月

（招待講演）「海から眺める歴史～水中考古学の成果」NPO 法人南の風創生本部主催文化講演会，静岡県下田市，2018年 11月

（招待講演）「世界の水中考古学と鷹島」研究発表 松浦党研究連合大会，松浦市鷹島，2018年 6月

（招待講演）「鷹島海底遺跡出土遺物から蒙古襲来絵詞を読み解く」 美術史学会東支部大会，横浜市，2017年 12月

（招待講演）「鷹島海底遺跡の調査とその後—これからの水中考古学研究」 『唐物 KARA-MONO 展』神奈川県立金沢文庫連続講座，横浜市，2017年 12月

（招待講演）「水の中からよみがえる日本の水中遺跡」「世界の水中遺跡」（講演2本）かたらんね～文化財で楽しむ九州アジア倶楽部，福岡市，2017年 8月

（招待講演）「海外における発掘調査・活用事例報告」 国史跡鷹島神崎遺跡シンポジウム基調講演 11月 松浦市

（招待講演）“The Past, present, and future of Underwater Cultural Heritage Management in Japan” International Conference “The 40th Anniversary of the Shinan Shipwreck Excavation, Mokpo (Korea)”，2016年 10月

（国際学会）“The use of ROV for defining the area of a site underwater” World Archaeology Congress，京都，2016年 8月

（国際学会）“Underwater Cultural Management in International Perspectives” World Archaeology Congress，京都，2016年 8月

（国際学会）“The History, Status, and Future of Underwater Cultural Heritage Management in Japan” 2nd Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage (Hawaii) 2016年 5月

(招待講演) 「歴史を知り未来を探る水中考古学」 歴史・文化・地域を見つめる講演会 有明高専地域共同テクノセンター, 大牟田市, 2016年 3月

(招待講演) 「水中考古学の魅力に迫る」 北九州市立いのちのたび博物館 歴史友の会 (北九州市) 2016年 1月

(国際学会) Yosifumi Ikeda, Randall Sasaki “Discovery and Future of the Lost Fleet of the Mongol Empire” 49th Annual Conference on Society for Historical Archaeology, Washington D.C., 2016年 1月

(招待講演) 「世界の水中遺跡の調査・保存・活用」 KURAKIZAKI2015 平成26年度宇検村倉木崎海底遺跡シンポジウム 鹿児島県宇検村, 2015年 8月

(招待講演) 「世界の水中考古学の現状と課題」福岡市埋蔵文化財センター 考古学座, 福岡市, 2015年 6月

(招待講演) 「世界の海事・水中考古学から学ぶ」沖縄県立博物館文化講座, 那覇, 2014年 11月

(招待講演) 「ベトナムの『元寇』を探る～予備調査の結果からわかること」大ベトナム展特別講演 九州国立博物館, 太宰府市, 2013年 5月

(招待講演) 「ベトナム・バクダン川の元寇遺跡の調査」 東南アジア考古学会大会 昭和女子大学, 東京, 2012年 11月

(国際学会) “The Archaeological Impact of Kamikaze: The Study on Two Mongol Invasion Sites – Japan and Vietnam” Society for East Asian Archaeology 5th Conference, 西南大学, 福岡 2011年 6月

(国際学会) “The Archaeological Investigation of “Kamikaze” First Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage, Manila, 2011年 11月

指導/コンサルティング

県・市町村への文化遺産調査指導

水中文化遺産の把握・調査・保存・活用など様々な形で指導やアドバイスをこなしている。下記にその一部を示す。

- 北海道上ノ国～地域の海事文化遺産に関する調査協力
- 福岡県新宮町相島～遺跡探査および指導(指導委員会オブザーバー)
- 福岡県世界文化遺産室(および宗像市)～水中遺跡探査指導・研究協力
- 鹿児島県西之表市～戦争遺産に関する保存検討(九七式艦上攻撃機の保存)
- 鹿児島県大島郡宇検村～水中遺跡調査・活用に関する指導
- 鹿児島県大島郡徳之島3町(伊仙町・天城町・徳之島町)～遺跡調査指導委員会委員委員
- 沖縄県多良間村～遺跡調査・保存指導

国・研究機関への文化遺産調査指導

○文化遺産コンソーシアム「海域ネットワークと文化遺産」ワーキング・グループメンバー(令和2年～現在):水中・海事文化遺産研究の専門家として招集。世界各地の水中文化遺産に関わる研究についての事例紹介、シンポジウムなどの企画をサポートなどを担当。

○バーレーン文化遺産局との協力 水中文化遺産アドバイザー視察(令和2年):とうきゅ文化財研究所を中心に実施しているワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクトの一環としてバーレーンの水中文化遺産に対する取り組み支援として現地での視察・簡易的な調査を行ない、協議を持った。その後、新型コロナ感染拡大を受け、現在は活動を停止しており、時機を見て再開を予定している。

○日蘭共同研究事業 主担当(平成 28 年～現在):九州国立博物館とオランダ文化遺産庁の間で交わされた日蘭共有文化遺産の把握・調査事業。現在は、オランダ領事館から日蘭の共有海事文化遺産研究に対する研究・視察などのアドバイスをを行っており、国王など来賓者の視察先の選定、現地でのガイドなどの依頼を受けている。

○文化庁・水中遺跡調査検討委員会 外部メンバー・オブザーバー(平成 25-26 年、令和 2-3 年)、委託・事務局主担当(平成 27-31 年):文化庁の水中遺跡調査検討委員会に外部メンバー、オブザーバ、調査委託事業の事務局(主担当)など様々な立場で関わっている。ユネスコ水中文化遺産保護条約締約国会議(パリ本部)に出席。

参加した主な学術調査(探査・発掘)

ワディ・アッ=サイル考古学プロジェクト(東京文化財研究所・バーレーン/調査協力)
ベトナム・ゲティン地域における朱印船貿易解明のための研究(沖縄県立芸術大学/調査協力)
福岡県大島沖周辺海底遺跡探査(九州国立博物館/主担当)
北海道昇平丸探査プロジェクト(九州国立博物館/主担当)
ハワイ沖特殊潜航艇調査・真珠湾攻撃75周年記念(オンライン参加・NOAA)
千葉県御宿町サンフランシスコ号探査プロジェクト(東海大学/調査協力)
滋賀県葛籠尾崎海底探査(立命館大学/調査協力)
オランダ・テセル島沖沈没船(日蘭共同研究)
沖縄県多良間村高田海岸ファン・ボッセ号座礁地点調査(九州国立博物館/主担当)
福岡県新宮町相島海底遺跡の調査研究(九州国立博物館/主担当)
福岡県沖ノ島周辺海底遺跡探査(九州国立博物館/主担当)
鹿児島県宇検村倉木崎海底遺跡調査(九州国立博物館/主担当)
エルトゥールル号調査プロジェクト(串本町・トルコ海事考古学研究所/調査協力)
伊402号探査プロジェクト・長崎県五島沖旧日本軍潜水艦(Texas A&M University/調査協力)
松浦市鷹島海底遺跡調査(アジア水中考古学研究所)
ポルトガル・FARO-A沈没船調査プロジェクト(Texas A&M University)
イエメン・Mahra Region 発掘プロジェクト(Southwest Missouri State University)
トルコ・UTARP ティグリス・ユーフラテス川流域遺跡調査(University of Utah)
オマーン・Ras al Jins 発掘プロジェクト(CNRS)

水中遺跡調査検討委員会などで訪問し(個人研究者として)継続して交流のある機関・団体

アメリカ	海軍水中考古学ユニット、国立公園局、海洋大気庁(NOAA)、エレルギー庁(BOEM)、
イギリス	メアリーローズ号博物館、サウスハンプトン大学
イタリア	文化省保存科学研究所、パイア海底公園
オーストラリア	西オーストラリア海事博物館、連邦政府環境省(水中文化遺産部)
オランダ	文化遺産庁
スウェーデン	ヴァーサ号博物館
スリランカ	文化遺産局水中考古学ユニット
タイ	文化芸術局水中考古学ユニット
デンマーク	国立博物館、ヴァイキングシップ博物館
バーレーン	文化局・国立博物館
フランス	国立水中考古学研究所(DRASSM)
ベトナム	ハノイ考古学研究所
韓国	国立海洋文化財研究所
中国	国家文物局水下文化遺産保護中心、広州会場シルクロード博物館
国際機関	UNESCO ユネスコ、 ICCROM イクロム

外部資金獲得成果

『水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業』文化庁文化財部(平成 30/31 年度)

『水中遺跡の保存活用に関する調査研究』文化庁文化財部記念物課(平成 25～29 年度)

水中遺跡の調査体制の整備に向けた研究事業および「調査のてびき」作成事業
分担:平成 25/26 年度 研究協力者、27～31 年度 事業主担当

*令和 2~3 年度は、事業は継続しているが、客員研究員・外部協力者として関わる。

『海の学びミュージアムサポート』船の科学館(平成 29 年度)

九州国立博物館文化交流展特別展示『海からよみがえる歴史:水中考古学最前線』開催の支援事業

代表：島谷弘幸（九州国立博物館長） 分担：展示・企画主担当

『平成 28 年度日中韓文化遺産フォーラム』文化庁文化財部

水中文化遺産の専門家を招聘し国際シンポジウム『水中文化遺産の保護と活用』などイベントの開催

代表：島谷弘幸（九州国立博物館長） 分担：事業企画・主担当

『平成 27 年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業』文化庁国際化

オランダ文化遺産局長を招聘し、九州を中心に各地で日蘭共有文化遺産に関連するイベントの実施

代表：島谷弘幸（九州国立博物館長） 分担：事業企画・主担当

『Bach Dang River Archaeological Survey Project. Vietnam』

ベトナム・バクダン川にて海事遺跡分布調査を実施（蒙古襲来関連海戦跡地）

Institute of Nautical Archaeology (Texas A&M University)、Flinders University 等と協力。

資金は National Geographic Society、Henry Matisse Foundation などから取得 代表：佐々木蘭貞

『Search for Manil Galleon:San Francisco(1609)』

千葉県御宿町で 1609 年に沈没したマニラ・ガレオンの事前調査

資金は Spain-USA Foundation、RPM-Nautical Foundation から取得 代表：佐々木蘭貞

『Takashima Timber Recording Project』

長崎県鷹島海底遺跡出土木材の研究（修士論文研究）

資金は Institute of Nautical Archaeology から取得 代表：佐々木蘭貞

SNS など情報発信ツール

メインで使用しているもの

Twitter	水中考古学・沈没船研究	https://twitter.com/Nautarch_japan
Facebook	水中考古学	@shipwreckarchaeology.japan・Community
個人ブログ	水中考古学 船舶・海事史研究	https://www.nauticalarchaeologyjp.com/
Youtube	水中考古学チャンネル	（準備中・試験的運用中）
Note	水中考古学者の...	https://note.com/shipwreck （準備中・試験的運用中）
Clubhouse	@ship.arch (Randy Sasaki)	（準備中・試験的運用中）

マスコミによる報道等

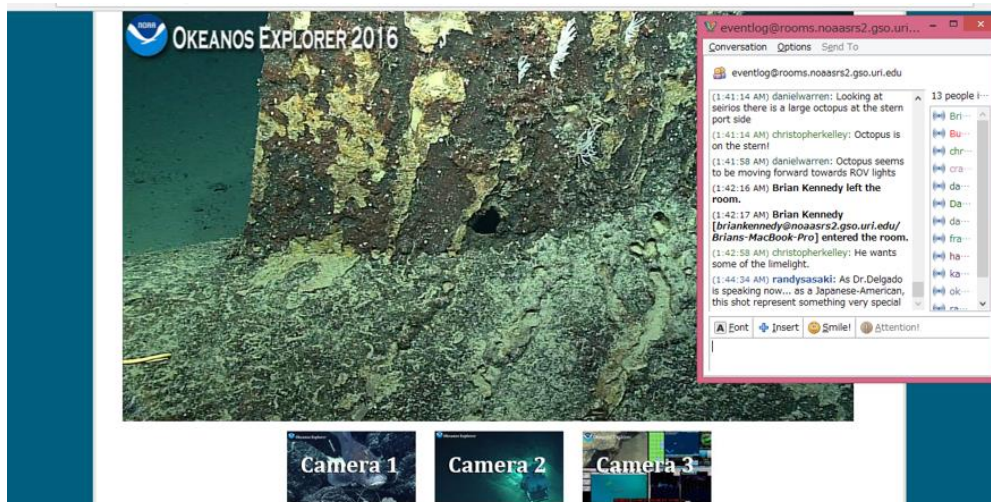
『世界一受けたい授業・講師』（2011）

『NHKスペシャル・発見！幻の巨大軍船～モンゴル帝国 vs 日本 730 年目の真実』（2012）

『NHKスペシャル戦国マナーウォーズ』（2020）

読売 KODOMO 新聞 「水中考古学：海から歴史を解き明かす」（2021）

その他、海外のドキュメンタリー番組、など複数出演



2016 年 12 月、真珠湾攻撃 75 周年を記念した探査プロジェクトにオンラインで参加した際のスクリーン・ショット。海底から水中ロボットによる配信。

写真は、真珠湾攻撃前に USS ワードにより沈められた特殊潜航艇。画面中央は、4 インチ砲によりあいた穴。太平洋戦争における最初の戦闘行為として記録されている。厳密には正式な開戦よりも前に沈没している。

（アメリカ大気海洋局から専門家として招待）

履歴書

佐々木 蘭貞 (ササキ ランディ) Randall (Randy) James SASAKI

1976年 (S.51) 4月2日生まれ (日本国籍)

住所 813-0033 福岡県福岡市東区多々良 1-52-9 202

E-mail shipwreckarchaeology@gmail.com

電話 090-5288-2255



学歴	
1995年 3月	桜美林高等学校普通科 卒業
1995年 3月	Brained Community College (Minnesota) 入学
1995年 8月	Southwest Missouri State University (Minnesota) 編入
1999年 12月	卒業 Anthropology: Antiquities (二重専攻)
2002年 8月	Texas A&M University 入学
2008年 12月	Master of Arts, Department of Anthropology (Nautical Archaeology Program) 授与
2009年 1月	Texas A&M University 博士課程編入
2011年 7月	日本帰国のため休学
2019年 12月	Doctor of Philosophy, Department of Anthropology (Nautical Archaeology Program)

職歴		
開始 (就職) 年月 1999年 12月 ~	Center for Archaeological Research, Missouri: 発掘作業員	終了 (退職) 年月 ~ 2001年 7月
2001年 8月 ~	Archaeological Consulting and Services, Wisconsin: 発掘調査員	~ 2002年 7月
2004年 8月 ~	Conservation Research Lab, Texas: 保存処理/遺物写真撮影担当	~ 2008年 8月
2008年 8月 ~	Texas A&M University : ティーチングアシスタント	~ 2010年 8月
2011年 8月 ~	派遣業務 (個人事業) : 通訳・翻訳、英語・社会科講師など	~ 2013年 3月
2013年 4月 ~	福岡市文化財課嘱託職員 埋蔵文化財調査員	~ 2015年 3月
2015年 4月 ~	九州国立博物館 アソシエイトフェロー	~ 2020年 3月
現職 2020年 4月 ~	福岡市埋蔵文化財センター 文化財教育普及専門職員 九州国立博物館 客員研究員 九州大学 浅海底フロンティア研究センター 共同研究員	
委員・役員など	文化遺産コンソーシアム「海域ネットワークと文化遺産」 ワーキングメンバー 文化庁・水中遺跡調査検討委員会 外部メンバー・オブザーバー 日蘭共同研究 研究サポート	

資格・言語・スキルなど
普通運転免許証 潜水士
英語 (ネイティブ)、韓国語・中国語・フランス語 (論文・専門用語など読解可能)
PCスキル全般 (3Dグラフィック、フォトモデリング、動画編集など)
サイドスキャンソナー解析など水中遺跡探査手法